

【地域協働推進課からのお知らせ】 ～避難所看板を設置しました～

「日本海沿岸の津波浸水想定の見直し」に基づき、避難所を見直したことから、町内の全ての避難所へ新たに看板を設置しました。

看板には、津波や洪水など、災害の種類により避難すべき避難所を「○・×」で表示しています。「防災ガイドマップ」と合わせて、近くの避難所を確認しておきましょう。



【自立式看板設置例】
余市紅志高等学校



【壁面式看板設置例】
グランデリビエール

問合せ 地域協働推進課 防災グループ ☎21-2142

【札幌管区気象台からのお知らせ】 ～冬の地震災害に備える～

北海道はこれまでも、地震により多くの被害が発生していますが、冬に地震が発生した場合は、積雪や寒さなどにより、夏よりも被害が大きくなるといわれています。

地震はいつ発生するか分かりません。今回は、冬に地震が発生した場合の備えについて紹介します。

①雪への備え

屋根に雪が多く積もっていると、地震の揺れで屋根から落雪することがあります。また、急傾斜地では雪崩が発生しやすくなります。地震や津波で避難するときには、こうした場所に近づかないようにしましょう。

積雪や道路の凍結、吹雪などにより、避難所までの移動に時間がかかることがあります。避難所の場所と経路は事前に確認しておきましょう。

②火災への備え

冬はストーブなど暖房器具を使用していることが多いため、夏場より火災の危険が高くなります。日頃から、暖房器具のそばには、転倒しやすいものや燃えやすいものを置かないようにしましょう。

また、暖房器具の近くに洗濯物を干すことも火災の原因になります。

停電が復旧する際に、電気製品のケーブルがショートして発火し、火災が発生することがあります。避難するときにはブレーカーを切ってから避難しましょう。

③寒さへの備え

地震によって電気やガスなどのライフラインがストップすることがあります。

暖房器具が使えなくなりますので、避難中やその後の避難生活の寒さ対策が重要となります。防寒着、毛布、使い捨てカイロなどを用意しておきましょう。

また、「平成30年北海道胆振東部地震」では、大規模停電が発生し、屋内で小型発電機を使用したことで、一酸化炭素中毒による死亡事故が発生しました。ポータブル石油ストーブなどを使用する場合には、一酸化炭素中毒への注意が必要です。こまめに換気をしながらの使用や、小型発電機は屋内では絶対に使用しないなど、取り扱いに注意しましょう。



冬の停電
(提供…札幌管区気象台)

問合せ 札幌管区気象台天気相談所 ☎011-611-0170

広告

余市町の空間放射線量率の状況

測定日：12月20日～1月23日
 最高値：49nGy/h
 最低値：25nGy/h
 平均値：39nGy/h

※平常時は10～60 nGy/h程度で測定されます。

空間放射線量率は「**平常レベル**」でした

問合せ 地域協働推進課 ☎21-2142